

市民・地域共同発電所全国フォーラム 2014 報告

NPO 市民環境プロジェクト代表理事

三国 千秋



24日 1日目 集合写真

「市民・地域共同発電所全フォーラム 2014」は、10月24日-25日（金・土）金沢市で行われた。今回は金沢市との共同開催ということもあり、地域での共同発電所づくりに向けた協働のあり方についても話し合う良い機会になったのではないかなと思う。参加者は、一日目 197 名、二日目 140 名、延べ人数 337 名で、現地視察にも 56 名（金沢コース 39 名、輪島コース 17 名）が参加したので、現地視察（多くは県外者）にもそれなりの意味があったと思う。今回はまた経産省、農水省、環境省からの後援をいただき、地方都市での開催ながら国の担当者から直接、政策的な話を聞くことができたのも一つの成果であった。できれば今後もこのような全国会議を地方で開催することが望ましい。というのも、このような全国会議を毎年積み重ねることで、全国各地に再生可能エネルギーへの関心が高まり、推進の動きが出てくると思うからである。さらに、今回の会議には国・県・市町村の議員も何名か参加していた。国や自治体の議員はその役割からして、直接、政策立案に関わるか自治体の計画作りや条例作成に関わることができる。その意味では、今後は議員や自治体職員向けの集中的な学習会やセミナーなどを開催し（これは実務者レベルの学習会であるからして、人数はそれほど多くなくてもよい）、再生可能エネルギーに関する基本的認識や共通理解を得ること、あるいは先進的取り組み事例等に関する意見交換のようなものも重要になってくると思う。



開会挨拶 三國千秋氏



基調講演1 和田武氏



基調講演2 村上敬亮氏

和田先生の基調講演「市民・地域共同発電所が拓く持続可能な未来」は、市民主体の地域再生可能エネルギー事業を基本に、海外の事例も多く紹介され、再生可能エネルギーに関わる一人として実に勇気づけられるものであった。スライドで紹介された多くの事例写真の他にも、分析や考察の部分ではもう少し長い時間をかけることができればと感じた。また四人のパネラーによるパネルディスカッション「地域の協働による再生可能エネルギー導入を考える」では、各地からの多様な取り組みと多様な視点が報告され、報告自体が興味深い、内容豊かなものであった。



24日 1日目 パネルディスカッション

二日目の分科会では、①「太陽光地域共同発電所の作り方入門」（コーディネーター：豊田陽介氏）、②「市民・地域共同による木質バイオマス利用の事業化」（コーディネーター：吉川守秋氏）、③「地産地消の電力小売供給」（コーディネーター：竹村英明介氏）、④「市民・NP0・事業者・自治体・大学等の協働で進める再エネ普及」（コーディネーター：平岡俊一氏）と四つの分科会を設定したが、時間の短さはいうまでもなく、誰もが他の分科会にも参加したいと思ったことだろう。予稿集を見るかぎり、どの分科会の発表も興味あるものであった（各分科会の報告者名とタイトルについては、同会議「予稿集」を参照）。以下では、二つの点に絞って、今年度の全国フォーラムを振り返ることにする。



分科会 ①



分科会 ②



分科会 ③



分科会 ④

固定価格買取制度の買取り制限

今回の会議のおよそ一週間前、突然、九州電力から固定価格買取制度での買取りについて、これ以上は無理であり、新規の買取りを中止する旨の一方的な発表があった。これには誰もが驚き、また参加者にとっては一番気がかりなことであった。基調講演に立った内閣官房の村上敬亮氏もそのことに触れ、FIT 導入のいきさつと FIT に関する金融機関からの姿勢に言及された。村上氏の話の一部を要約すると、FIT がスタートしてからは、当初の予想をはるかに超える発電事業申請があり、それには銀行側からの後ろ盾が大きく影響しているとのことであった。もちろん、これには事業者の規模や事業規模が大きく関わってくる。実際、地域の NPO や団体が事業を立ち上げようと思っても、地元の金融機関からの融資のハードルは思った以上に高い。これに対して、大手の事業者による大規模事業になればなるほど、銀行等の金融機関はむしろ融資に寛大であるか、積極的になる傾向にある。FIT という制度の下で、片や弱小组織による小規模の再生可能エネルギー事業と、他方大企業による大規模事業とを同一の基準で扱うべきか否かは、今後も議論の余地あるものであるだろう（思うに、ここにはまた原発再稼働をめぐる電力会社の思惑が働いているかもしれない）。

PPS と電力自由化に向けての動き

電力をめぐるもう一つの動きとして、PPS (Power Producer and Supplier、「特定規模電気事業者」) について触れておきたい。筆者は、竹村氏がコーディネーターをされた分科会「地産地消の電力小売供給」には参加していないのだが、その後に読んだ『原発ゼロで日本経済は再生する』(吉原 毅著、角川 ONE テーマ 21、2014) からは PPS に関して多くのことを教えられた。吉原氏によれば、ここ数年間の「新電力」による電力供給(「電圧が 6,000 ボルト以上で、かつ契約電力 50 キロワット以上ならば PPS を自由に契約でき、しかも既存の電力会社よりも安い」、同書 63 ページ)には目覚ましいものがあるという。例えば、2011 年度のデータによると、すでに霞ヶ関の省庁は東電から離れている。すなわち、農水省、総務省、内閣府、国土交通省、経済産業省、法務省、財務省、外務省はいくつかの PPS から電気を買っているか契約を結んでいる。しかも、こうした PPS による事業者は 2011 年度には 46 社だったが、2013 年度には 100 社に迫る勢いであるという(同、68 ページ)。さらに大企業の自家発電についていうなら、「全国の自家発電所の総出力は東日本大震災後の 2011 年度から 2012 年度には約 5 倍に増え、2012 年は 1062 万キロワット、実に原発 10 基分の電力量にあたる」とのことである(同 27-28 ページ)。代表的なのはトヨタ自動車で、2012 年までに天然ガスによるコージェネレーション発電機を 8 基導入、自家発電比率は 30%に達している。もちろん、以上のことは大企業だからできると言えばそれまでだが、2016 年からは、現在は契約することができない家庭、商店、事務所など低圧向け電気も全面的に自由化される予定である。そうなれば、現在のような FIT を活用しての 9 電力会社への売電のみならず、これからは地域の事業者や一般家庭などへの電力供給(売買電)についての新たな仕組み作りが求められるだろう。

今後の再生可能エネルギー普及、多様な需要と供給のあり方

今回の全国フォーラム全体を通して感じたことの一つは、再生可能エネルギーの多様さと、それを生み出す地域のエネルギー事業主体の多様さであった。もちろん、これは地域特性にもよる。電力の自由化についても、自由であることが何でも良いというわけではないが、電気事業を見る限り、日本は旧来の電力独占体制のままであるか、その制度を色濃く残している。

和田先生も言われるように、再生可能エネルギー普及のための主体は市民であり、地域であるとするならば、そのあり方も変わってくる。食料と同じく、エネルギーについても「地産地消」を目指すならば、その中心となるのは多様な地域の小規模発電所、小規模エネルギー事業体といった分散型のものになるか、現在のあり方と分散型との併用であるだろう。このことはまた、将来の地域づくりや「まちづくり」のあり方ともリンクするから、そのためには自治体を含めた地域における他の事業体や団体との連携が重要になってくるだろう。

とはいえ、今後に向けた課題も多い。大きなものとしては、今回の電力会社による固定価格買取拒否の理由となった電力系統網の問題、発送電分離など電力供給をめぐる制度上の課題がある。また、再生可能エネルギーについていつも言われることだが、「自然エネルギーは不安定である」ということについて――筆者はそれに対する答えを持たないのだが、――電力系統連携に関する技術的課題もある。他の国々ではこの類の質問や課題にどう答えているのだろうか？ その点を今後はしっかり学びたいと思う。最後に、エネルギーをめぐる「持続可能性」の問題がある。確かに、今日の大規模エネルギー供給と大量のエネルギー消費に支えられた社会は、経済効率の面からは多くの利点があるかもしれないが、それが将来世代にも渡って持続可能であるとは誰も断言できないだろう。だからといって、これを先延ばしすることで済まされるであろうか？ ここにはやはり、エネルギーの地産地消という課題、それに見合ったものにするために、根本的には今日のライフスタイルにどう向き合うかということが関わってくるだろう。

最後になるが、今回の全国フォーラム開催にあたり、和田先生をはじめ実行委員のみなさん、金沢市をはじめ関係者の方々、北から南まで全国各地から参加してくれたコーディネーターおよびパネラーと参加者のみなさん、会議の進行と運営を陰で支えてくれば多くのボランティアのみなさんに深く感謝したい。

(2015. 1. 16)



25日 2日目 最終全体会



アピール文発表 本間友香里氏



閉会挨拶 山野之義金沢市長

期日：2014年10月24日～25日

場所：金沢市文化ホール

主催：金沢市、市民・地域共同発電所全国フォーラム2014実行委員会

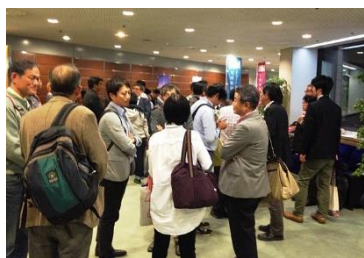
後援：経済産業省、農林水産省、環境省

協力：一般社団法人輪島もんぜん市民風車

「写真 会場風景」



24日1日目 会場風景



懇談風景



書籍コーナー



リフレッシュコーナー

「24日 1日目 懇親交流会」



「25 日 2 日目 現地視察 輪島コース / 金沢コース」



輪島もんぜん市民風車（のとりん）



輪島コース 風車視察



輪島コース 風車視察



金沢コース 金沢市小水力発電視察



金沢コース 金沢市消化ガス発電施設視察

お問い合わせ先： 市民・地域共同発電所全国フォーラム 2014 実行委員会事務局

合同会社 金沢市民発電所内

〒920-0051 金沢市二口町 ニ 53-1 （金沢フィットビル）

電話：076-208-3120 email: kanazawa.cps@gmail.com

FORUMURL: <http://homepage3.nifty.com/shiminkankyopj/forum.html>